

告示	番号	43	慢性心疾患
	疾病名	肺動脈弁狭窄症	

肺動脈弁狭窄症

はいどうみやくべんきょうさくしょう

概念・定義

肺動脈弁の狭窄により右室から肺動脈への駆出に支障をきたす先天性心疾患。単独のものおよび Fallot 四徴症など他疾患に合併したものがあ
る。心エコー、心臓カテーテル検査から重症度を決定する。

- 1) 軽症：右室圧 50mmHg 以下、右室—肺動脈間の圧差が 30-50mmHg 以下
- 2) 中等症：右室圧 50mmHg 以上、体血圧まで
- 3) 重症：体血圧以上。新生児、乳児で、動脈管に肺循環が依存している例は、とくに重症である。

右室—肺動脈間の圧差が 30-50mmHg 以上の場合は治療を行う。治療は、経皮的カテーテル肺動脈弁拡張術か手術である。近年は、手術はほとんど行われなくなった。治療後の予後は、比較的良好である。

症状

軽症例では無症状。中等症以上では加齢に伴い心不全、不整脈を呈する。重症例では乳児期に心不全症状を呈し、突然死することもある

治療

右室—肺動脈間の圧差が 30-50mmHg 以上の場合は治療を行う。治療は、経皮的カテーテル肺動脈弁拡張術か手術である。近年は、手術はほとんど行われなくなった。術後一過性に漏斗部過収縮による右室圧上昇をみることもあり、ベータ遮断薬が投与される。異形成弁に対しては外科的治療が選択されることが多い

抜粋元：http://www.shouman.jp/details/4_62_90.html